

神戸を先導する都心ゾーン形成プラン

目 標

「ウォーターフロントを含む都心」「海上都市」「神戸空港」からなる地域において、海・空・陸の広域交流拠点としての中核的ゲート機能や、海辺の生活スタイルを体感できる「みなと」を活かしながら、働き、学び、楽しみ、さらには住む人々を増やすことにより、人・物・情報が交流・融合する都心ゾーンを形成し、神戸全体の発展を先導する。

チャレンジ指標(ともに目指そう値)

「都心に魅力がある」と感じる人の割合	80%
観光入込客数[市街地+神戸港観光群]	1,300万人
事業所の開業率[中央区]	13%
都心各駅の利用者数[各鉄道会社計]	40,000万人
広域交通機関[新神戸駅・神戸港・神戸空港]の利用者数	1,100万人
都心においてまちづくりに係るルールを決めている地区数	15地区

主な取り組み



みなとを活かした展開

アクセスや回遊性に優れた、“みなと神戸”を満喫できる空間の形成
(新港突堤西地区の親水空間への利用転換、魅力的な歩行者動線の整備、
ウォーターフロントの各拠点や神戸空港などを結ぶ海上アクセスの検討)
誘(いざな)う仕掛けづくり

都心ゾーンの魅力向上による来街者の増加や投資の促進

(ターミナル機能の強化、LRTなど回遊性を向上する交通機関の検討)

都心・海上都市・神戸空港の相乗効果を生かした取り組みの促進

「新神戸～三宮～ポートアイランド～神戸空港」の軸の連携強化

(医療産業都市構想と集客産業との連携、航空関連産業の誘致・支援)

協働と参画による都心活性化

個性を生かしたまちづくりと「協働」のネットワークづくり

(都心に関係する民・学・産と行政が一体となり共通認識を持って
取り組む仕組み(都心のマネジメント)づくり)